

第三者意見

一般社団法人CSRレビューフォーラム



一般社団法人CSRレビューフォーラム
共同代表

山口 智彦 様



一般財団法人CSOネットワーク
事務局長・理事

黒田 かをり 様



サステナビリティ消費者会議
代表

古谷 由紀子 様



駒澤大学 文学部社会学科
教授

李 妍焱 様

2016年3月、大日本印刷(以下、DNP)の皆さまと対話を行い(8ページ)、そこで私たちが重要である点、さらにその後いただいたCSR報告書についての意見を以下のようにまとめました。

1. DNPグループビジョン2015(7-8ページ)について

DNPの皆さまとは「DNPグループビジョン2015」(以下、ビジョン)について語り合いました。

本ビジョンは、ビジョンという名前がついていますがDNPの基本理念です。ビジョンに込められた真意は、DNPはこれまで、お客さまからこれを作ってくださいと言われて作る会社だったが、これからは自分から社会に出ていき、人々の声を聞いて自分で判断して仕事をする会社が変わろう、という、一種の宣言として作ったのだと伺いました。

BtoB企業の多くが社会に出ていく諸ステークホルダーと対話するようになれば、従業員はその視野が広がり、社会にとって必要な製品・サービスが生まれる土壌ができるのではないのでしょうか。DNPIにはこの動きを先導していただきたいと思えます。

私どもからは、ビジョンの真意を全従業員に浸透するように取り組んでいただくこと、および、従業員の一人ひとりが社会と接することを促す仕組みの構築、さらにこれらを支える人事評価制度などの検討の必要性を強調したいと思います。

2. 4つの成長領域(8ページ)について

ビジョンに掲げられた4つの領域は、人々のニーズの基本的なものであり、かつDNPが築いてきた知見や技術がいきる領域であると思えます。

これをどう具体化するかの社内大議論をしていただきたい、というのが私どもからの提言です。

全社ではこの4領域での貢献を目指す、さて、自分の部署ではどうするか、さらに自分は何をやるか、ということまで、グループ全社、全員で議論することで、実質的な能動化が始まるのではないのでしょうか。

議論を重ねていくなかでは、生活者、学校、行政、顧客、サプライヤーなどの対話によって、4つの領域に関わるステークホルダーとDNPとの関係を見つめることを可能にし、DNPがすべきことを見出すことができるのではないのでしょうか。

3. 貴社と社会課題について

今回の報告書で、社長が持続可能な開発目標(SDGs)に貢献していく旨の意志

を示されました。

目下、DNPが取り組んでいる社会課題の多くは、社会基盤があって経済力のある人々の暮らしや環境を向上させるものであると括弧することができます。

一方、SDGsが示しているものの多くは、社会基盤がなく、経済力のない人々の問題を解決することを目指しており、この両者間には相当な距離があります。

私どもは、DNPがSDGsの背景にある“誰一人取り残さない”との理念を視野に入れて事業を進め、より多くの人が事業の恩恵を受けられるよう努力していただくことを期待します。将来、後者の課題解決事業化を図る時には、社会的弱者の声、さらに国連、関わる国の政府、NGO/NPOと具体的に対話して事業を作っていただきたいと思えます。

4. CSR報告書を見つけて

前半が事業による社会課題解決、後半でCSRマネジメントの進捗を報告されています。全体として優れた報告書であると考えます。とくに、歴史をふまえて現状を示すのは、会社の姿勢の一貫性と連続性を表現する良い手法だと考えます。

前半においては、全社の方向性を象徴する製品を素材として、社会課題と解決の両面を説明しておられます。その記述ですが、社会課題の解決になるのか、あるいはその取り組みに課題はないのかなどもふまえた、客観的な視点も欲しいところです。

一般通念として、自己を相対化できるかどうか、「知とコミュニケーション」を良きものにするための決め手であると考えますが、CSR報告書は自己を相対化できる会社であるかどうかのパロメーターであると思えます。この観点での試行を続けていただきたいと思えます。

後半については、DNPIはCSRをPDCAで進める、という基本方針がよく守られています。できたこと、できていないことをオブラートに包まず記述していることは広く評価されて良いのではないのでしょうか。

この基本形を守りつつ、次年度から、重点テーマのそれぞれについて開示の深度を深めていただきたいと思えます。

人権を例にとれば、海外の連結グループ会社22社を対象に、従業員、地域社会、消費者、調達先など、主なステークホルダーの人権状況を社内書面調査されました。着実な実施に敬意を表します。さまざまな場面に見えない課題が潜んでいることはよく見られるところです。次は今回の調査結果をふまえて調査範囲を絞り、必要なステークホルダーとの対面に調査を深め、救済すべき人が見つければ手当てをし、そのプロセスを開示していただきたいと思えます。

CSR・環境委員長 メッセージ



CSR・環境委員長
常務取締役
井上 覚

私たちDNPグループは、1876年の創業より『事業を通じて社会に貢献する』ことを「志」として事業を展開してきました。そのときどきの社会の課題に向き合い、その解決に資する製品やサービスを生み出すことで、広く社会の期待に応えてまいりました。

現在、環境問題をはじめとする国際社会が抱える課題は、人類社会の危機と言われるほど容易には解決できないものです。それらの解決には、さまざまな人々が知恵を出し合うことが必要です。私たちも、自らが能動的に動き出し、新たな価値を生み出すことで、これらの課題解決に寄与していきたいと考えています。こうした私たちの決意を込めたのが、2015年に定めた「DNPグループビジョン2015」です。

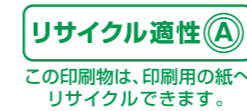
このような私たちの取り組みについて、第三者意見として、CSRレビューフォーラムの皆さまから貴重なご意見をいただきました。ここにあらため

て御礼申し上げます。「DNPグループビジョン2015」については『社会にとって歓迎すべきことであり、社会を先導していった欲しい』との期待を寄せていただきました。また、具体化に向けては、より多面的な視野で社会を見ること、さらなる社内議論を重ねていくことが重要である、とのご提言をいただきました。真摯に受け止めてまいりたいと思えます。

「DNPグループCSR報告書2016」では、創業から社会とともに歩んできたDNPの歴史を振り返るとともに、グループビジョン実現に向けた取り組みや将来の方向性について、最新事例を交えながら紹介しています。

私は、事業活動を進める上で、その前提として社会や環境に配慮した経営基盤が必要だと考えています。本誌の後半でその取り組みの一端を紹介していますが、継続的なマネジメントの強化を通じて、社会に貢献していくことができる企業を目指していきます。

「DNPグループ CSR報告書2016」の和文版冊子は、環境やユニバーサルデザインに配慮した印刷物として以下のマークが付与されています。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



こちらの報告書PDFは、認証紙に印刷された認証印刷物のデータを使用して制作しました。



グリーン電力を導入しました(年間115万kWh)。本報告書を印刷・製本する際の電力(1,900kWh)は、自然エネルギーでまかなわれています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に使われています。



カラーユニバーサルデザイン対応
本報告書は、より多くの人にとってわかりやすい色づかいに配慮したデザインであると、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構によって認証されました。



このCSR報告書はカーボンフットプリントを算定・表示し、CO₂排出量をオフセットしています。

このCSR報告書は、原材料調達から廃棄・リサイクルまで製品のライフサイクル全体で発生する温室効果ガスCO₂量に換算した「カーボンフットプリント(CFP)」マークを取得しています。また、CFPIによって算定したCO₂排出量(1部あたり710g)の全部をCO₂排出権(クレジット)により実質的にゼロにする「カーボン・オフセット」を行っており、どんぐりマークを取得しています。